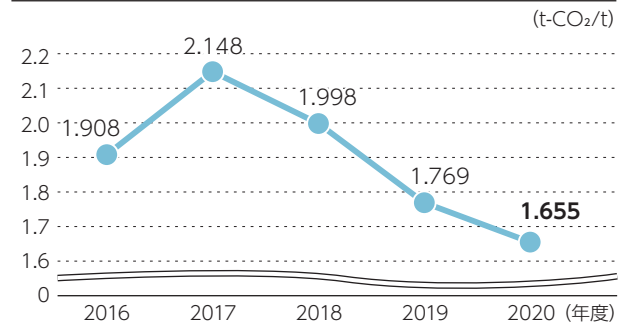




CO₂排出量の削減

エネルギー消費量と同様、CO₂排出量原単位を毎年1%削減することを目標としています。買電使用によるCO₂排出量は、毎年公表される電気事業者別の排出係数で算出します。合理化や省エネ設備の導入も行いましたが関西電力㈱の排出係数が大幅に下がったため、2020年度は昨年度よりCO₂排出量原単位が7%減少しました。

CO₂排出量原単位の推移



省エネルギーの取り組み

当社は2019年度から2021年度までの3年間の省エネルギーに関する中期計画を策定・実行しています。その内容は、前記のようにエチレン換算生産量当たりの原油換算エネルギー原単位、CO₂排出量原単位を年1%の割合で削減するもので、工場毎に目標値を設定しています(2016~2018年度の平均実績値の通算3%削減を目標としています)。目標値に対して、2020年度の実績値を下表に示します。全社のエネルギー原単位は、中期目標に対し

て0.95と目標を達成しております。

CO₂排出量原単位は、排出係数の大幅な減少等もあり、中期目標に対して0.82となり、目標を達成しております。

コージェネレーションシステム (CGS) については買電・都市ガス費用およびメンテナンスコストを考慮したベストミックスの検討を実施して、淀川工場は年間運転時間を5,000時間、播磨工場は年間連続運転としました。

また、省エネ法定期報告の数値をもとに、2015年度実績値から評価が開始された省エネ法事業者クラス分け制度において、2020年度の報告(2019年度実績値)はBクラスと評価されました。

今後も継続的にエネルギー原単位の削減を図り、目標達成とともにSクラス評価となるように省エネルギーの取り組みを行ってまいります。

各拠点の省エネルギーの取り組み

工場		2020年度実績	中期目標値	対目標比
淀川工場	エネルギー原単位 (KL/T)	1.012	1.070	0.95
	CO ₂ 排出量 (原単位CO ₂ -T/T)	1.679	1.937	0.87
播磨工場 (播磨地区)	エネルギー原単位 (KL/T)	1.058	1.168	0.91
	CO ₂ 排出量 (原単位CO ₂ -T/T)	1.590	1.977	0.80
播磨工場 (愛媛地区)	エネルギー原単位 (KL/T)	0.827	0.791	1.05
	CO ₂ 排出量 (原単位CO ₂ -T/T)	2.518	2.436	1.03
東京支店	エネルギー原単位 (KL/T)	0.003	0.003	1.19
	CO ₂ 排出量 (原単位CO ₂ -T/T)	0.006	0.005	1.18
全社	エネルギー原単位 (KL/T)	1.012	1.063	0.95
	CO ₂ 排出量 (原単位CO ₂ -T/T)	1.655	2.022	0.82

2020年度の主な取り組み

2020年度も引き続き、製造部門の合理化(用役原単位改善)、間接部門の日常的な無駄なエネルギー使用の削減、全従業員に対する省エネルギーに関する広報活動、動機付けのために、夏季・冬季の節電取り組み(省エネ専門部会員によるパトロール、エネルギー管理統括者(技術担当役員)によるパトロール)、省エネアイデアコンテスト、省エネニュースの発行を継続して実施しました。

トピックスとして、淀川工場では蒸気ボイラーを高効率設備に老朽化更新するとともに、冷凍機も3基インバータ一仕様の省エネ設備に更新しております。